福間中学校

全国学力・学習状況調査及び福岡県学力・学習状況調査について

令和８年４月２３日（木）、２８日（火）に第３学年を対象として実施された、「全国学力・学習状況調査（国語、数学、英語、生徒質問紙）」、及び令和８年５月２１日(木)に１学年、翌２２日（金）に２学年を対象として実施された「福岡県学力調査（国語、数学、英語＜２学年のみ＞生徒質問紙）」の結果についてお知らせします。また、この調査結果をもとに本校の教育活動における成果と課題を分析し、今後の授業改善・充実のための取組も併せてお知らせいたします。

１．全国学力・学習状況調査 福岡県学力調査とは

実施についての以下の目的と内容を踏まえ、本校では学力状況調査問題を次のようにとらえています。調査の結果は、生徒が身につけるべき全ての学力を示すものではなく、学力の特定の一部分です。また単に、正答率のみを注視するのではなく、現状の分析と今後の取組、例えば課題を解消するための授業指導技術の向上の大切な資料として活用します。さらに、学校だけの成果や課題にとどめず、コミュニティ・スクールの強みを生かし、学校・家庭・地域の三者が連携・協働して子ども達の学力向上に取り組んでいきます。

【 調査の目的 】

◇ **全国学力・学習状況調査（第３学年対象）**

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における生徒への教育指導の充実 や学習状況の改善等に役立てるとともに、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立させることを目的として、文部科学省が、都道府県教育委員会、市町村教育委員会等の協力を得て実施するもの。

◇ **福岡県学力調査（第１、２学年対象）**

（1）義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、県内各地域における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、各学校が、児童生徒の学力の状況を把握し、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

（2）各市町村教育委員会及び学校が、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、児童生徒の学習指導の改善・支援の充実を図るとともに、継続的な検証改善サイクルの維持・向上を支援する。

（3）児童生徒一人一人が、自らの伸びや課題を把握し、学びを調整しながら主体的・自律的に学びに向かうことができるよう支援する。

【 調査の内容 】

◇ **全国学力・学習状況調査（第３学年対象）**

調査は、国語、数学及び英語とし、国語、数学は、冊子を用いた筆記方式で実施。英語は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システムによるオンライン方式で実施する。

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

（1）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（2）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

質問調査については、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を、児童生徒の活用する ICT 端末等を用いた CBT（生徒質問調査にあっては、MEXCBT による CBT）で実施する。

◇ **福岡県学力調査（第１、２学年対象）**

第１学年は国語及び数学、第２学年は国語、数学及び英語での実施とし、出題範囲は調査対象学年の前学年までの指導事項（中学校調査第１学年においては小学校までの指導事項）とする。

また、生徒の学びに向かう力、人間性等に関する事項等を把握するため、質問調査を実施する。

実施方法については、教科に関する調査は、「IRT（Item Response Theory)」（項目反応理論)※による調査を実施する。また、教科に関する調査、児童生徒質問調査のいずれも、児童生徒が活用する ICT 端末等を用いて、オンライン方式（CBT）で実施する。

※IRT(項目反応理論)とは
国際的な学力調査や英語資格試験の TOEIC などで採用されているテスト理論です。この理論を用いることによって、異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じ尺度(ものさし)で比較するため、問題の難易度によって結果が左右されることなく、受検者の能力を正確に測定できる特徴がある。

２．学力調査の結果及び本校の課題と今後の授業改善について

【 １年生 】福岡県学力・学習状況調査		
結果	教　科	県平均との比較
	国　語	県平均と比較して、やや上回る結果となりました。
	数　学	県平均と比較して、上回る結果となりました。
課題と授業改善について	国語	次のような課題がみられました。 ➢ 文脈に即して漢字を正しく読むこと。 ➢ 文の主語を抜き出して入力すること。 ➢ 文章の内容を表した図を完成させること。 そこで、解決のために次のような学習指導を行います。 ➢ 文章の音読等を通して、漢字の読み方を確認する活動を取り入れます。 ➢ 文の成分の学習を通して、文の構成を理解できる活動を取り入れます。 ➢ 説明的な文章の学習を通して、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する活動を取り入れます。
	数学	次のような課題がみられました。 ➢ 円を含む複合図形の面積の求積方法について、式を用いて説明しているものを選ぶこと。 ➢ 合同な三角形をかくことができない条件のものを選ぶこと。 そこで、解決のために次のような学習指導を行います。 ➢ 図を提示して補助線を活用し、式の項が図のどこを示しているか、説明する学習をおこないます。 ➢ 実際の作図を通して条件を確認し、三角形のかける条件と条件不足の例を比較する学習をおこないます。

【 ２年生 】福岡県学力・学習状況調査		
結果	教　科	県平均との比較
	国　語	県平均と比較して、やや上回る結果となりました。
	数　学	県平均と比較して、ほぼ同じ結果となりました。
	英　語	県平均と比較して、上回る結果となりました。
課題と授業改善について	国語	次のような課題がみられました。 ➢ 引用の仕方の説明として、適切なものを選択すること。 ➢ 追加する情報として、適切なものを選択すること。 そこで、解決のために次のような学習指導を行います。 ➢ 書く活動を通して、正しい原稿用紙の使い方や、他者の意見を引用して自分の考えをまとめる学習をおこないます。 ➢ 書く活動を通して、自分の意見を主張するために情報を見直し、情報を整理したり取捨選択したりする学習をおこないます。
	数学	次のような課題がみられました。 ➢ おおよその面積を求めること。 ➢ 反比例する事象について、比例定数が表しているものとして適切なものを選ぶこと。 そこで、解決のために次のような学習指導を行います。 ➢ 図を提示して周りを囲む活動を行い、次の図がどの図形と近似できるかを説明する学習をおこないます。 ➢ 一次関数の授業の中で、比例定数・変化の割合について触れ、変数ｘ、ｙとの関係を整理する学習をおこないます。
	英語	次のような課題がみられました。 ➢ 事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や表現を用い、まとまりのある文章を書くこと。 ➢ 会話の流れを踏まえ、相手の問いかけに対して適切に答えること。 ➢ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。 そこで、解決のために次のような学習指導を行います。 ➢ 日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを伝え合うコミュニケーション活動を継続しておこないます。 ➢ 日常的な話題について、自分の考えや気持ちなどを順序立てたり、構成を考えたりして、まとまりのある文章を書く活動をおこないます。 ➢ まとまりのある文章から、正しく内容をくみ取り、必要な情報の取捨選択ができる活動をおこないます。

【 ３年生 】全国学力・学習状況調査

	教　科	県平均との比較	全国平均との比較
結果	国　語	県平均と比較して、やや上回る結果となりました。	全国平均と比較して、やや上回る結果となりました。
	数　学	県平均と比較して、上回る結果となりました。	全国平均と比較して、やや上回る結果となりました。
	理　科	県平均よりも上回る結果となりました。	全国平均よりも上回る結果となりました。

課題と授業改善について

国語

次のような課題がみられました。
- 文脈に即して正しく漢字を書くこと。
- 語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えること。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすること。

そこで、解決のために次のような学習指導を行います。
- 文脈に即して漢字を選び、その理由を説明する活動を取り入れます。
- 辞書的な意味と本文中での意味を比較する活動を取り入れます。
- 本文の叙述を根拠として、自分の考えを伝え合う活動を取り入れます。

数学

次のような課題がみられました。
- 図形の性質を証明し、そこから得られたことを起点としてさらに探求を深めていくこと。
- データの活用について、図や表から読み取れることを、正しく理解し、活用すること。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

そこで、解決のために次のような学習指導を行います。
- 図形の証明などから得られたことから、新たな問いを見つけたり、探求するような活動を取り入れます。
- 基礎的な問題から入試問題まで、データの活用に関する問題を解く機会を増やします。
- 数や式を書くだけでなく、自分なりの根拠を他者と交流し、さらに数学的に説明する活動を取り入れます。

英語

次のような課題がみられました。
- 社会的な話題等について自分の意見や感想を、理由をもとに述べること。
- 意見や理由についてつながりのある文を述べること。
- 学んだ言語材料を活用し、自分の意見を正確な文構造で表現すること。

そこで、解決のために次のような学習指導を行います。
- 社会的な話題について聞いたり、読んだりして把握した内容に基づき、メモなどを活用しながら、口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動を設けます。
- 目的のあるコミュニケーションを通して、生徒が意味のある文脈の中で言語材料を活用し、定着を図れるような活動を継続的におこないます。

３．学習状況調査の結果と今後の取組について

生徒質問調査のうち、福津市が特に重視している質問項目の各学年の結果（□）と今後の取組（○）は次のとおりです。

【将来の夢や目標を持っている】

□ 本校の生徒は、いずれの学年においても県や国の平均をやや下回る結果となりました。また、学年が上がるにつれて肯定割合が低下する傾向が見られます。

○ 総合的な学習の時間を核としたキャリア教育の充実を一層図ります。職業調べや職場体験学習、地域の方々との未来会議などを通して、将来の生活や進路について考え、社会の一員としての目的意識や自覚を高める機会づくりに取り組んでいきます。

【自分にはよいところがあると思う】

□ 肯定的な意見をもった生徒の割合は、1年生では、県の平均と同等の結果、2・3年生においては、県や国をわずかに下回ったものの、学年が進むにつれて自己肯定感が高まる傾向がうかがえます。

○ 授業や学級活動、学校行事等の実施を通して、学級・学校への所属感や自己有用感を高めます。日々の学習や生活における生徒一人ひとりの頑張りに対する適切なフィードバックや承認に努め、自己肯定感の更なる醸成を図ります。

【授業以外で平日にどれくらい勉強しますか（塾等も含む）】

□ 平日に1時間以上学習する生徒の割合は、すべての学年で県や国の平均を上回る結果となりました。

○ 学習時間の確保にとどまらず、家庭学習の「質」をさらに高められるように、「生徒が自ら学びたい」と思える質の高い学習課題の設定を行うとともに、効果的な家庭学習の手引きや学習成果へのフィードバックを行い、授業改善と連動した家庭学習の定着を進めます。

【いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う】

□ 肯定的な意見をもった生徒の割合は、すべての学年で県や国の平均を上回る結果となりました。

○ 道徳の時間はもとより、日常のあらゆる学校生活を通して自他を大切にする態度の育成に取り組んでいきます。併せて、定期的なアンケートや積極的な実態把握を行い、いじめの早期発見・早期認知と未然防止に努めます。

【人の役に立つ人間になりたいと思う】

□ 肯定的な意見をもった生徒の割合は、1・2年生では県の平均をやや上回り、3年生でも県・国と同等の結果となりました。

○ 道徳や学校行事、生徒会活動等を通して公徳心の醸成に取り組むとともに、キャリア教育や地域清掃等の実践的な活動を通して、地域や社会の形成者として他者や社会に貢献しようとする自覚の涵養に努めます。

【地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う】

□ 肯定的な意見をもった生徒の割合は、約6割の生徒が意欲をもっているものの、3年生においては県や国の平均を下回る結果となりました。

○ 地域や社会の一員としての自覚の涵養に努め、3年間を見通した体系的な取組を進めます。特に3年生における未来会議等に向けた探究学習を推進するとともに、地域活動推進委員会の推進や地域参画の機会づくりを通して、地域貢献への意欲の喚起を図ります。